

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372002200
法人名	株式会社シミズ
事業所名	グループホームジョイア・ミュキ
訪問調査日	平成 19 年 9 月 10 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2372002200
法人名	株式会社シミズ
事業所名	グループホームジョイア・ミュキ
所在地	愛知県豊橋市東幸町長山8-2 (電話) 0532-63-3339

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地		
訪問調査日	平成19年9月10日	評価確定日	平成19年9月25日

【情報提供票より】(19年8月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	13 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費15000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合 償却の有無	有 2年	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(8月30日現在)

利用者人数	13 名	男性	4 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	67 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐野医院、塩之谷整形外科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの近くをJR東海道線が走り、「二川駅が近くにある。昔ながらの伝統を大切にしながら、住宅街の一角に建っている。ホームは、平屋建ての左右対称の2ユニット(東ユニット、西ユニット)からなっている。広いゆったりとした敷地には、色とりどりの花も植えられ明るい雰囲気である。管理者は、「自慢できることは、スタッフの熱意」と誇られ、職員と共に「家庭的環境で、地域の中で自由に、のんびり、共に支えあい」のケア理念に向かって取り組んでいる。
「本当にありがたい」と言われる100歳の女性は、食事の準備、片付けなどをされている。また、昼食時に「おかわり」との声もあり、生き生きとしている。時には、おちゃめな会話も飛び交うなど、明るく、笑顔の絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、地域の人たちとの交流に期待されていたが、夏祭りなど、子供達による「キッズダンス」や「マジックショー」などが行われ、地域との交流はできていた。 月一回のユニット会議も有効に活用されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、管理者と、ユニットリーダー2名が、数回にわたり話し合い、意見を出し合いながら作成された。 管理者は、自己評価票について昨年書いてきたことと同じことはあえて書かず、職員が認識しているものと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議で出された意見を受け、玄関前や敷地内に花を植えるなど明るい雰囲気にすることに取り組んだ。会議の委員を10名で構成され、1年の任期とし、奇数月に会議が開かれる。広い敷地を活用して、「何か福祉に役立つことに活用したい」と市町村と連絡をとり、話し合いも行われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便り「のほほん通信」を発行し、ホーム内での暮らしぶり、イベント、健康状態等、メッセージを添えて伝えている。また、金銭の出納は各自レシートを付け、月1回報告されている。行事の案内をし、来訪時に声かけ、コミュニケーションをとり、本音を引き出す機会をつくっている。意見や苦情等は、前向きに受け止め、管理者、施設長で対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民の一員として自治会に加入しており、東幸町公民館にて、「フラダンスコンサート」を開き、利用者と一緒に地域住民も参加され共に楽しんだ、そんな様子を地元新聞にも載り、一部はケーブルテレビにもとり上げられた。中学生のボランティア受入れや、障害者、作業所との交流もあり、遊びに來たり、手紙を頂いたりしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームは、会社の資材置き場であった場所を「地域に役立つことに使いたい」との経営者の思いから生まれた。したがって、「地域に密着して」という理念は、当初よりホーム独自のものであり、「自由に、のんびりと、共に支えあい、その人らしく」というケア方針とともに、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を筆頭にスタッフ会議が、日々の業務を通じてはもちろんのこと、月に1回のユニット会議での話し合いや理解、情報の共有をしつつ、理念の浸透をケアの実践に取り組んでいる。	○	スタッフ会議やユニット会議で、意義が運営やケアの問題点・課題の解決と改善に役立つように、点検と充実に努められることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは、自治会に加入している。これまでには、フラダンスやマジックショー、夏まつり等々、ホーム内や公民館を借りて行い、地域の人々や子供達も加わりぎやかであった。また、その様子は、地元新聞にも載り、一部はケーブルテレビにもとりあげられている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価、外部評価については、それらを活かして一部の改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、管理者とユニットリーダーで話し合ってまとめている。	○	自己評価については、スタッフ全員で取り組むことを期待したい。また、外部評価については、その結果を運営推進会議、スタッフ会議、ユニット会議等で公表し、全体で受け止め理解し、具体的な実践に活かしていくことを求めたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は委員の任期を一年とし、毎奇数月に開いている。地域の人からホームについて、「暗い、入りづらい、何をしている所か」などの感想があり、それらの意見を受けて、玄関前や敷地内に色とりどりの花々を植え、全体を明るい雰囲気にした。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム敷地の裏手には、広い空き地がある。そこを「何か福祉に役立つことで活用できないか」との思いから、市町村と定期的に話し合いなどを行い連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭の出し入れについては、各自のレシートをつけて月1回、家族に報告している。利用者の生活の様子やイベントなどは、ホーム便り「のほほん通信」を発行し、メッセージや担当者名を書き入れて家族に届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、頻繁に家族とコミュニケーションをとることで、その本音を引き出している。苦情等については、施設長、管理者、ユニットリーダーで対応している。	○	家族は、諸般の事情から本音を言いにくいこともある。そのような場合の配慮として、玄関や門の脇に質問・意見受付箱等の設置などの工夫についても望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にするようにしているが、致し方のない時は人員を補充、そして経験や能力を考慮しつつ、人員を配置することで、利用者の負担、ダメージが最も少なくなるようにできるだけ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や勉強会は数回行っている。実務者研修を受けた職員は、その内容をスタッフに伝えている。日時や人数などの関係で難しい場合もあるが、今後は、外部研修にも参加していきたいと考えている。	○	時期・期間・年度などの違いはあっても、より多くのスタッフが研修に参加し、知識・情報・スキルアップに努められるように、育成計画の実践に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度愛知県グループホーム連絡協議会に加入し、また豊橋市社会福祉協議会にも加入している。ホームの開設時には他所のグループホーム等へ見学にも行ったが、現在は交流がない。	○	今後は、様々な研修・会議等の集まりに積極的に参加され、他のホームとの交流や勉強会、ネットワーク作りなどをしつつ、より良いケアの実践と環境作りに努めることに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームでは体験入居はないが、見学は何回でも対応できる。見学を通じて、ホームの雰囲気に慣れ、スタッフともふれあい、おしゃべりをしつつ、安心と納得をして、サービスを利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりに担当者を決めている。担当者は、各人の性格・体調・精神状態を把握し、介護者であると同時に家族のように接している。本人が希望すれば、調理・配膳・片付けなども手伝ってもらっている。職員は、年配者から教えてもらうことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月1回開くユニット会議の中でも、利用者の思いや意向等についても話し合い、できるだけ満足して日常生活が過ごせるように検討している。連絡ノートの回覧も徹底して行い、スタッフ全員が情報を共有するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議、個人記録、生活目標プランなどをもとに各利用者の生活援助計画書を作成し介護計画をつくっている。本人・家族の思いや意向は、面会時に聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、短期では1か月、通常は3か月に1度見直しを行い、その結果を計画に反映させている。それ以外でも、状態が変化したときはその都度対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは、デイサービスやショートステイは実施していない。ホーム独自の活動として、職員間の情報などにより、ホーム内や公民館を借りて、多様なイベントを行って利用者や近隣の人にも楽しんでもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者には、各自、かかりつけ医がいる。受診時に家族の付き添いが困難なときは、職員が付き添っている。その場合には、詳しい報告を家族にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者のケアについては、介護度が上がっても自分たちでできるところまではやっていきたいと考えている。症状の重度化があれば、その都度、専門医に相談し適切な対応をしているが、現状ではターミナルにはまだ取り組んでいない。	○	重度化や終末期については、関係者全体の話し合いの機会を作り、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、方針の統一が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフは、利用者の日常生活の場面ごとの状況と体調、気分を考慮し、気配りしつつ言葉かけや介助をしている。また、個人情報については、個人のファイルにまとめて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの近くにある幸公園やめがね橋への散歩(暑いときはスーパー)、ファミリーレストランでのモーニングやランチ、日々の買い物への同行など、楽しみと気分転換への配慮をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月ごとの献立作りへの参加、また、利用者の希望や力量に合わせて、スタッフが声かけなどをしての配膳、後かたづけへの協力など、利用者も参加している。「おいしいよ、おかわり」などの声が出るリビングである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの利用者に対するケアの時間を十分にとるために今年より、ユニットごとのグループで入浴シフトを組んでいる。原則として、1日おきの入浴となっている。入浴後の爪切りや整容の時間もゆったりとれるように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月1回は、モーニングやランチで外食をしている。その他、毎日の散歩、各自の好み、趣味に応じてのぬり絵・習字・絵画・誕生会やユニットごとのイベントなどにも取り組み支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者の体調、精神状態、またその日の天候などを考慮しつつ、買い物や散歩など、できるだけ希望に添えるように外出ができるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当ホームでは、玄関、各ユニットにも鍵をかけてない。ただし、一部の方については、家族の同意を得た上で、居室の窓に施錠をしている。	○	安全面に配慮して自由な暮らしを支えるよう職員の見守り方法などを徹底し、鍵をかけずに過ごせる工夫をする意識や姿勢に取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当ホームでは、年2回防災訓練を実施している。利用者が生活し、使用し、利用する場所には、行動の妨げになる物品を置かないように日常的に心掛けている。	○	現状では、ホーム内における災害対策にとどまっていることもあり、日頃から、地域の人たちとの交流や、警察、消防署、市町村との連携について密にしていけることも求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ユニットには、利用者ごとの食事の記録表があり、毎食ごとに食事と水分の摂取量を記入している。また、ポットに入れたお茶を常時準備しており、各自でいつでも飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、テーブルの他に畳敷きの共用スペースがあり、利用者が洗濯物たたみを手伝ったり、おしゃべりしたりとくつろぐ良い場所になっている。また、浴室内の数本の手すりは、段差をつけてあり、入浴時の体勢に適應できるようにして配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、何も置いていない個室を提供する。したがって、利用者は、好みの寝具を用い、使い慣れた自分のタンスを置き、好きな大きさのテレビを置くなど、思い思いに過ごせるようにしている。		